

宇治市要保護児童対策地域協議会 令和2年度第1回代表者会議 議事要旨

<日 時> 令和2年8月20日(木) 14:00~15:30

<場 所> 宇治市役所8階 大会議室

<出席者> (委員:20人出席/24人中)

中田会長、奥西副会長、水嶋委員、大塚委員、石原委員、山花委員、池本委員、久世谷委員、朝倉委員、西田委員、水流添委員、芝辻委員、中川委員、亀田委員、迫委員、向井委員、佐々木委員、安達委員、福山委員、倉辻委員
(事務局)

福祉こども部 星川福祉こども部長、雲丹亀こども福祉課長、川崎こども福祉課副課長、横山こども福祉課主幹、次郎内こども福祉課子育て企画係長
(傍聴者) 2人

<会議内容>

1 開会

- ・「宇治市要保護児童対策地域協議会の会議の公開に関する要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことを確認。

2 委嘱状交付

- ・山本市長より委嘱状交付。

3 市長挨拶

- ・山本市長より挨拶。

4 委員自己紹介

- ・事務局より、配付資料確認。
- ・事務局より、席次をもって委員紹介とする旨を説明、欠席委員報告、事務局紹介。

5 会長・副会長選任

- ・指名推選により、会長に中田委員、副会長に奥西委員が選出され、承認される。
- ・続いて、中田会長、奥西副会長より挨拶。

6 議題

1) 会議の公開の取扱いについて

- ・資料1「協議会関係資料」のうち、「宇治市要保護児童対策地域協議会の会議の公開に関する要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことが確認された。

2) 宇治市の取組状況について

3) 京都府の取組状況について

- ・事務局より、資料2「宇治市報告資料」に基づき、説明が行われた。
- ・京都府宇治児童相談所より、資料3「京都府報告資料」に基づき、説明が行われた。

【意見交換・質疑応答の概要】

○コロナ禍でも、虐待件数が増加傾向にないということには安心した。しかし、子育て関連のイベントも自粛され、この間に出産されるお母さんたちの産前産後の不安やストレスが増えていると思う。これが虐待に繋がらないように、しっかりとケアをしていく必要がある。

○京都府の資料では1～3月までの虐待件数は、大きな件数の増加がなかったということであった。宇治市の場合は4～7月の件数も報告されており、そのあたりの詳細を説明していただきたい。また懸念事項等があれば併せてお聞きしたい。

→資料にあるように4～7月の電話相談の件数が前年比で約1.4倍になった。児童相談所への通報は、コロナ禍で通告する側も外出機会等が減ったことにより通報機会が少なくなっている可能性がある。逆に家庭での事象については、市や拠点への相談が増えているのではないかと考えている。

懸念としては、コロナ禍で家庭にいる時間が増えることにより、性的虐待の増加があるのではないかと考えており、何らかの形で啓発していきたいと思っている。

→性的虐待については、子ども自身が訴えづらい側面があると思う。また、通告したとしても対応が難しく、子ども自身の逃げ場が無くなってしまいうことも考えられる。親に対して、どういったことが性的虐待となるのかを周知していくことは大事だと思う。

○こどもからレター形式で相談を受ける取組みを行っているが、先日も父親が母親に対して暴力を振るっているという相談があった。実感としてもこういったケースというのは増えていると思う。

○民生児童委員は児童福祉法に基づいて活動を行っているが、現実的な問題として、家庭の込み入った部分まで踏み込んでいくことは難しいと感じることが多い。しかし、今日の報告を受けて、児童相談所や市が協力しながら様々な事例に対応していることを聞いて安心できたし、各機関がさらに連携し合えばよいと思う。

○以前に近所でネグレクト傾向のある家庭があった。対象児童のために積極的に関わっている方がいたが、母親に対して否定的な発言をされることもあり、こどもが傷ついていた。こども自身の気持ちをしっかり考えて対応しなければいけないと感じた。

→児童相談所でも、こどもに対しての説明はしっかり行うようにしている。直接関わる方が当事者に対して、見守りであり、協力であり、支援であるということをきちんと伝えなくてはならない。

4) その他報告事項

- ・次回代表者会議は、令和3年2月頃に開催予定
- ・令和2年度オレンジ・パープルリボンキャンペーンの実施予定について

7 閉会